



# 武蔵野

埼玉大学図書館 2009年10月1日 3号



**大学図書館に望むこと** 平成19年4月、大学卒業から約4半世紀を経て、再び大学生を送る機会に恵まれた。入学当初から図書館にはお世話になったが、図書館スタッフには親切な方々が多く、大変感謝している。しかし、残念ながらシステム面でいくつか気になった点があったのも事実である。まず、レファレンスの受付時間についてである。昼休みにレファレンスの申込みができなかったのは不便だった。次に、2階にスタッフが不在な点があげられる。スタッフの目が届きにくい2階奥の閲覧室では、平気で飲食する学生や大声で話をする学生をたびたび目にした。また、夜が更けてから人気のまばらな2階で勉強するのは、防犯面から学生に不安を与える。経費削減が叫ばれる昨今、無理なお願いなどは思うが、昼休み中のレファレンス受付と、2階へのスタッフ常駐を是非実現させていただき、学生への更なるサービス向上に向けて、図書館には努力していただきたいと望んでいる。



(埼玉県立白岡高等学校・教諭 若海由美)

## こんな図書サービスがあればいいな～

大学図書館はあらゆる分野の研究結果の記録及び図書などを収集、整理、保存、蓄積すると同時にこれを迅速・正確に研究資料として教授及び学生に提供する奉仕機能である。今や内外学生だけでなく、地域住民にも大学の図書館が利用できるように地域とも連携をしている。埼玉大学の図書館は、地域図書館や地域住民との連携が速やかに行われていると思う。ただ、埼玉大固有のサービスがあっても良いのではないかなと思う。埼玉大図書館を活性化させる方策として、私の母国の韓国の大学図書館のサービスを紹介する。それは休学中の学生向けのものだ。

韓国の大学図書館サービスでは、休学生

でも本を借りられるように日本円で1万円ほどの預かり金を図書館に預け、復学するまで借りられるようにしてサービスがある。問題がない限りお金は復学と同時に全額戻ってくる。また、連帯者に対しても、その期限が過ぎると一日あたり日本円で10円ずつ連帯金を払うものの、本は借りられるようにしている。連帯金は図書館のサービス向上(学生にコピー用紙やホッチキスを提供するなど)に還元される。

教育課程遂行のための効果的な支援は勿論、日本の他図書館と異なる真似できない埼玉大図書館だけの固有なサービスがあればと望む。

(文化科学研究科博士課程 李芝善)

## けやきの窓

図書の推薦をするほど読書家ではありませんが、学生時代に読んだ本の中で印象に残るものといえば、ドストエフスキの作品です。「罪と罰」、「カラマゾフの兄弟」、「白痴」など、作品はどれも重厚壮大なスケールのもので、そのスリリングな展開は、普通のミステリー小説をはるかにしのぐものでした。寛大で他人の痛みがわかる人間ではなく尊敬に値する人間ですが、「白痴」の主人公ムイシュキン公爵は、それを乗り越えて読んでいる方が歯がゆくなるほどの「人の良さ」を備えたキャラクターです。実は、数ある作品の中で一番心に残っているのは「白痴」です。この短文を記しながら、私自身、再読したい気持ちが強くなりました。

(理工学研究科長 水谷忠良)

## 館員通信

「ILLについて」：この本を読みたい、あの論文を手に入れたい、しかし、埼玉大学図書館では見つからない！こんなとき、ILL(Inter Library Loan：図書館間相互貸借)サービスがお役に立ちます。ILLは、埼玉大学で所蔵していない図書を他の図書館から借りる「現物貸借」、論文のコピーを送ってもらう「文献複写」などのサービスです。それぞれ送料やコピー料金がかかりますが、埼玉県内の県立・市町村立図書館の資料と埼玉県立大学の資料は送料無料で取り寄せることが出来ます。図書館レファレンス・カウンターでお申込み下さい。現物貸借ご利用の際は、よその図書館の資料ですので、返却期限に遅れたり、汚したり失くしたりしないようお気をつけ下さい。もちろん、逆に埼玉大学の資料を他の図書館に貸出することもあります。お互い様、持ちつ持たれつがILLの基本精神です。

(元利用サービス係 白本清香)